



## 朝会の話から（命の大切さ）

美瑛町立美沢小学校 校長 温泉 敏

運動会が近づいてきました。子どもたちも運動会モードになっているようです。当日の晴天を願うばかりです。

今回は4月、5月の朝会で話したことを書いてみます。

下の絵をご覧ください。何の絵だと思われますか？実は4月の朝会で子どもたちに見せた絵です。子どもたちに、この絵を見て気づいたこと、わかったこと、思ったことを出してもらおうと思いました。でも、4月の朝会は8日。まだ出会って3日目。絵も小さかったことから言葉はなかなかでてきませんでした。



絵を図書室外側の壁に貼っておいたところ、「校長先生、〇〇みたいのがある。」「△△っぽい」など私のところにきて話す子どもが出てきました。

そして、5月の朝会で絵についての話をしました。実はこの絵を貼った下に、もう1枚絵を貼っていました。それがヒントでした。と、いっても難しかったと思います。

今から240年前、といえは江戸時代です。この絵は江戸時代のお皿に描かれていた絵です。絵は様々だったようです。そして、家ではその絵皿を飾り、親子で話をしていたとのこと。子どもが絵について親に聞き、親が説明をしたということでしょう。

さて、この絵のもととなる題材は右の絵です。

中国のとある場所。当時は水瓶の価値が高く、高価なものだったようです。

ある日、子どもたちが数人で遊んでいると、その中の一人が大きな水瓶の中に落ちてしまいました。それを知った子どもたちは慌てました。ある子どもはうろうろし、ある子どもは大人を呼びに行こうとしました。その中である子どもは近くにあった石を手に取り、大きな瓶を割って友だちを助きました。

これは「いくら高価な物であっても、人の命に勝るものはない」との教えで、日光東照宮の陽明門勾欄など各地で彫り物として残されているそうです。



この瓶を割った子は司馬温公（本名は司馬光）で中国北宋時代の政治家（日本は平安時代）だそうです。この話をもとに、子どもたちには「昔は絵をもとに命の大切さ、重さを絵を見ながら話したんだね。」と話しました。

出典『江戸絵皿絵解き事典』（河村通夫著 講談社）

## 【国語の授業から（低学年）】

1、2年生が国語の時間、読書活動で森田先生が読み聞かせをしていました。そこに校長も加わりました。

始まったころは、森田先生が昔から読み継がれてきた「かばくん」「ぐりとぐら」等の名作を読んできました。校長は長新太さんやヨシタケシンスケさんを読みました。これからも、機会があれば続けていきたいと思えます。また、上学年もできたらいいなあ、と思う校長です。

ちなみに、私が読んだ長谷川義史さんは令和元年に美瑛町の図書館事業で来町し、子どもたちに町民センターと図書館で話をしたり、催し物をしてしています。

それから、時期はずれてしまいましたが4月23日から5月12日までは「子どもの読書週間」ですね。また4月23日は「子ども読書活動推進法」（2001年制定）により「子ども読書の日」と定められています。さらに4月30日は図書館記念日です。これは1950年に図書館法が公布された日を記念して、日本図書館協会が設定した日です。この法律ができるまでは図書の貸し出しが有料でした。

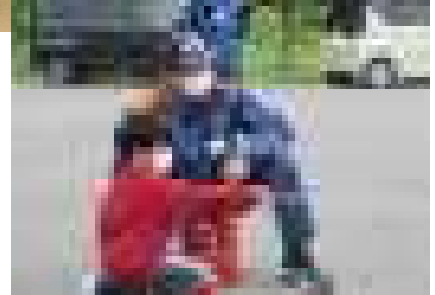


## 【避難訓練実施】



地震を想定した訓練の様子

消火作業体験



1年間に数回実施する避難訓練の1回目が行われました。

今回は地震からの火災を想定した訓練でした。机の下に隠れてからの避難です。

また、消火器の使い方も学びました。慌てると簡単な操作でもできないことがあります。こういった機会で見えたり、確認したりすることが大切です。

## 【ハウス作業・イモ植え】

栽培活動も始まりました。ハウスでは各学年で決めた作物を作ります。校舎横ではイモの苗を全員で植えました。



先日（二十日）に行われた環境整備作業の様子（池付近）

ハウスの作業の様子。去年の作業もいっぱいできてね。



少し深く植えたらあ。土寄せが楽かな

5月20日（金）にPTAの環境整備作業がありました。池と池に流れる水の道にある落ち葉等を取り除いていただきました。

ここは生活科や理科の学習の場になります。きれいになった水辺にはたくさんの草花があります。少しずつ大きくなってきていますし、昆虫なども休む場になっているのですね。

いつものことですが、PTAの皆様のご活動に感謝です。



◎ハウス内の土おこしは本山会長にさせていただきました。ありがとうございました。

～美沢小の12人 その2～

「私の生まれ育ったところとは全然風景が違います。」と北川養護教諭。

何が違うのかを聞くと、

「周りを見れば山があって、川があって、平地があって。私が育ったところは平野だったけど、山は見えなかった。」とのこと。

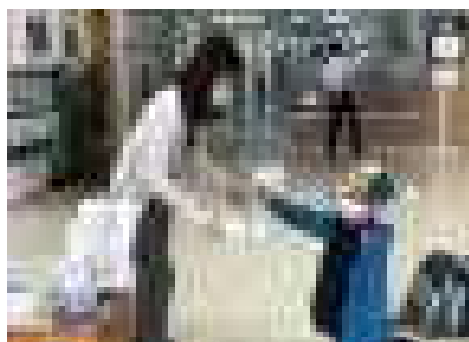
北海道は山が見えるのは日常の景色ですから意識することはないですね。さらに、「出勤時には白樺の間を気持ちよく車を走らせています。」と春を楽しんでいるようです。

これからの四季折々の姿を楽しみながらドライブ・・・いえ、出勤です。

あと1つ。驚いたことがあるそうです。それは上靴が自由、エプロン自由、体育の時間の服装も自由。

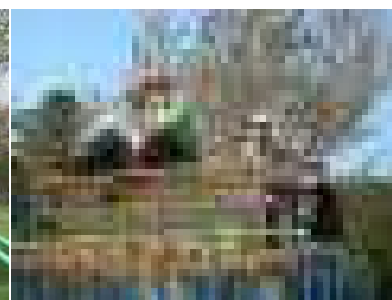
「私の過ごした小学校では、上靴は白。エプロンは指定されたもの。体育の授業は体操着に着替えていました。だから、美沢の子どもたちはうらやましいです。」

さて、養護教諭ですから子どもたちの健康には人一倍気になります。朝は玄関で健康チェックシートを受け取りながら、子どもたちとの会話。この場面が大切です。朝の一言の会話や表情を読み取っていきます。



体調が悪くなったとき保健室に行く子どもたち。先生というよりは6年生からみるとお姉さんになるかもしれませんね。

今、給食はコロナ禍であることから、担任外メンバーは4箇所に分かれて食べてます。北川先生は保健室で一人の給食。早く子どもたちと一緒に楽しく食べたい！



## 6月の行事予定

日	曜	行事予定
1	水	安全点検日 ALT
2	木	
3	金	運動会前日準備
4	土	運動会
5	日	
6	月	振替休業日
7	火	後片付け
8	水	ALT 委員会
9	木	研修日
10	金	児童朝会 ALT
11	土	
12	日	ヘルシーマラソン
13	月	
14	火	体力テスト
15	水	ALT クラブ
16	木	遠足(1~4年) 職員会議 保育所来校日
17	金	ALT
18	土	
19	日	
20	月	委員会
21	火	町スポーツ交流会
22	水	参観日 特別日課 ALT
23	木	遠足予備日 研修日
24	金	ALT
25	土	
26	日	町民健康マラソン
27	月	愛護少年団道路清掃
28	火	中学校出前授業① 職員会議
29	水	クラブ ALT 栄養士訪問
30	木	水泳教室①

## 【運動会に向けた取組】

運動会テーマ 完全燃焼 美沢っ子！

運動会に向けた取組が始まりました。

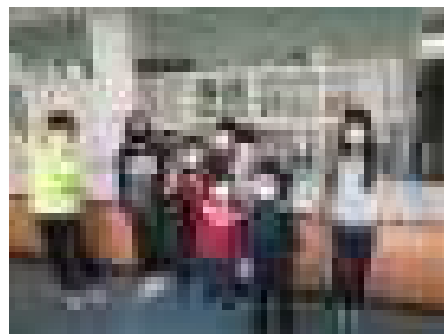
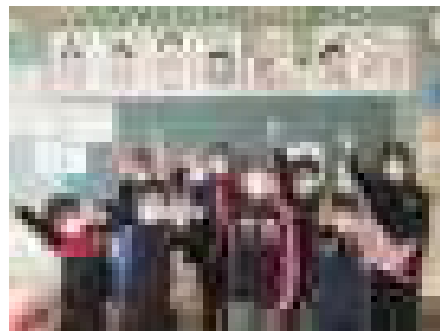
紅白分けと紅白集会（写真）。そして23日からは運動会特別時間割となりました。

運命的な競技では、子ども自身がアイデアを出し合いながら、自分たちの運動会という意識をもって取り組んでいます。

今年度も昨年同様、感染症対策をしながらの運動会となります。地域の方にもお越しいただき、子どもたちの頑張りを見ていただけないのが残念です。

今回はPTAの新たな種目も加わり、学校、保護者、地域とが当事者としての取組ができたことはとてもよかったと思っています。

どうか、地域の皆様にはグラウンドで子どもたちが走っている姿を心に映し、応援していただけたら幸いです。



## 【なぜだが長いコラム】

- ◇ 学校の玄関の傍にある木々にサギが巣を作りました。たぶん、アオサギだと思います。その巣の数は5つ、6つあるでしょうか。もしかするとそれ以上かもしれません。朝、玄関に立つときには必ずその木々を見て、サギをさがしています。
- ◇ 鳥インフルエンザが広がった時期がありましたから「アオサギもかかるのかなあ」と思っていることもあります。でも、アオサギという思い出すことがいくつかあります。それをちょっと書いてみます。
- ◇ 前任校で社会科の副読本を編集するときに、「ここにもアオサギがたくさんいたんだがなあ」と古老の話を聞きました。その後、アオサギはここからいなくなってしまったそうです。理由は、池にいたひぶな（「ひぶなの発祥の地」の看板があります）を食べ尽くしてしまったらしいのです。つまり、エサがなくなったからいなくなったということです。ですから、これから子育てをするためのエサはどこにあるんだろう？とってしまいました。
- ◇ さて、皆さんは「楼蘭」をご存じでしょうか。楼蘭はタリム盆地の砂漠にあるシルクロード交易で栄えた幻の王国といわれる都市です。この楼蘭の廃墟が発見され、調査を進めていく中で何体かのミイラがみつかりました。その中に若い女性のミイラがあったそうです。そして、その女性のミイラにはアオサギの羽飾りが添えられていたそうです。花婿の贈り物なのだそうです。
- ◇ どうして砂漠の真ん中に水辺の鳥の羽があるのだろうか？と思いますよね。実は昔楼蘭はロプノール湖の湖岸にあったオアシス都市でした。ロプノール湖は「さまよえる湖」とも呼ばれ、長い年月をかけて移動する湖です。当時は湖岸に多くのアオサギがいたのでしょう。
- ◇ アオサギの羽が花婿から花嫁に送られたのであれば、それは「幸せをもたらす鳥」ではないかと思うのです。そう考えると学校の玄関横の木々に巣をつくるアオサギたちは私たちに幸せを運んでくれるのかなあ、と思うのです。

